



## イデコ・ニーサの 投資信託の選び方

### 目次

- 投資信託の【仕組】
- 投資信託の【コスト（手数料）】
- 投資信託の評価【選択基準】





# リスクとリターンの関係

リターン

リスク

貯蓄（元本保証）

保険

預貯金

国債

投資信託

不動産

株（長期）

株（短期）

投機

FX・先物



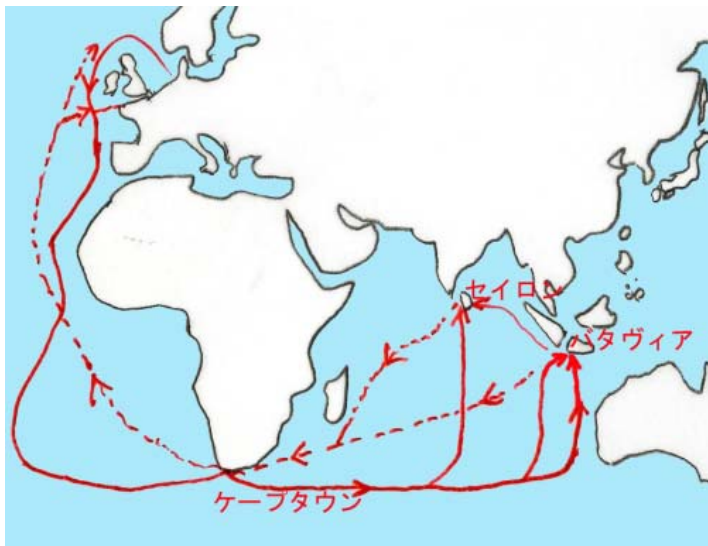


自分で選ぶ「投資の知恵」

# 投資信託の仕組み



## 投資信託

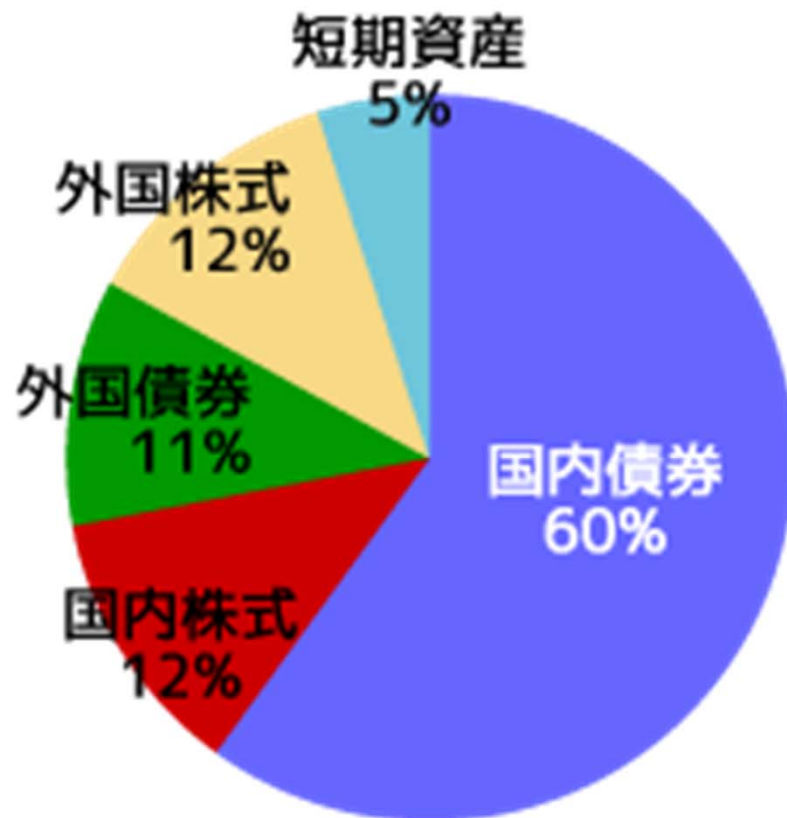




# 年金の運用

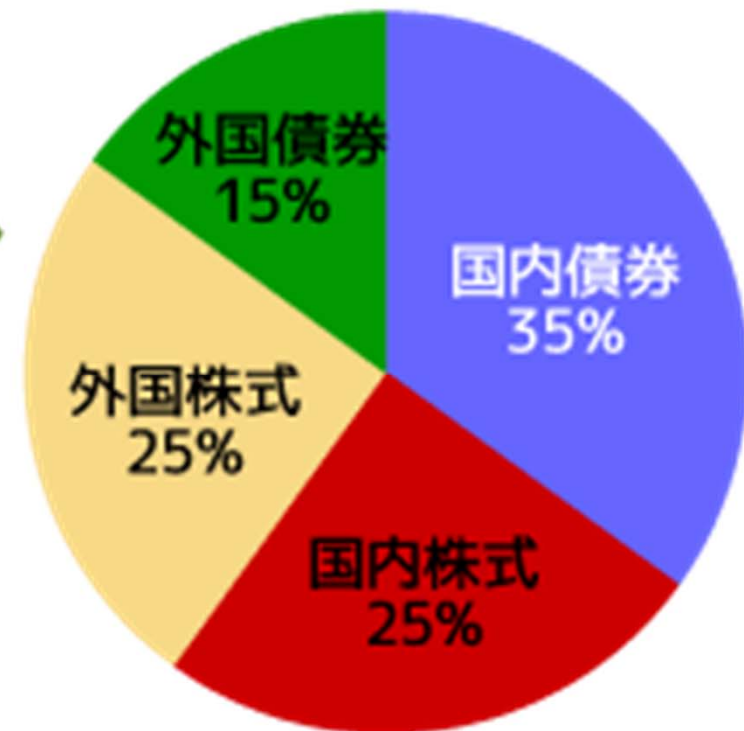
(変更前)

基本ポートフォリオ



(変更後)

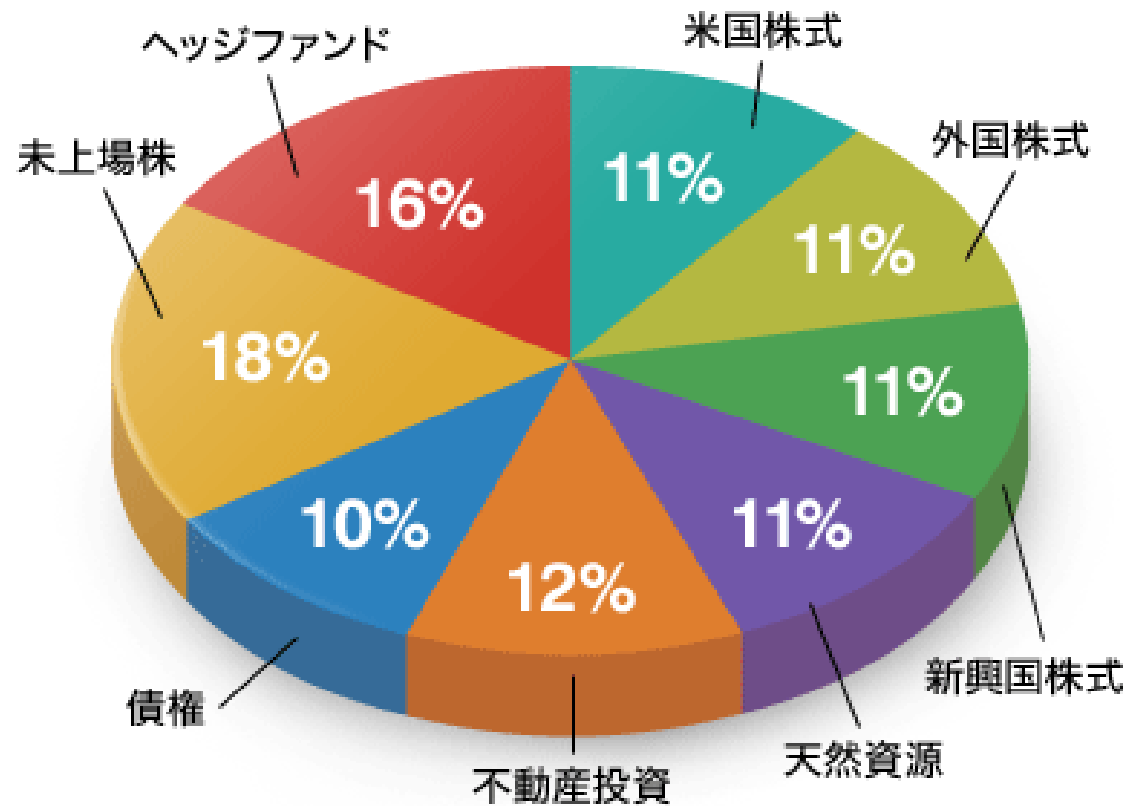
基本ポートフォリオ





# 大学の運用

〈ハーバード大学のポートフォリオの例〉



Harvard Management Company

**過去18年間の年率平均18%以上**



自分で選ぶ「投資の知恵」

# 投資信託の仕組み

## 専門家による運用

	専門家 (選手・チーム)	個人 (オーナー・監督)
時間	24時間の投資環境 (ファンドマネージャー)	?
経験	豊富(ファンドマネージャー)	?
知識・情報	エコノミスト アナリスト	?
資金力	豊富	?



## 投資家保護





# ここまでのまとめ

- 投資信託は金融商品の**詰め合わせパック**商品のようなもの
- ハイリスク・ハイリターンのもものやローリスクローリターンのもものまで**自分で選べる**。
- 産業革命時代からあって歴史は長い。
- **公的年金や大学の運用**にも使われている。
- 投資信託は運用の**プロに運用を任せる**ことができる。
- 投資家との関係はプロ野球チームとオーナーのような関係。  
投資家（オーナー）は優秀なチーム（投資信託）を選ぶことができる。
- 法的にも保護されている。



## 自分で選ぶ「投資の知恵」

### Aファンド

10 % 今年の利回り

-3 % 昨年の利回り

3 % 5年間の平均利回り

アクティブ型 の

運用がされます

### Bファンド

3 % 今年の利回り

4 % 昨年の利回り

7 % 5年間の平均利回り

インデックス型 の

運用がされます





自分で選ぶ「投資の知恵」

# 投資信託の仕組み

投資信託を選ぶポイント	アクティブ型	インデックス型
運用者	ファンドマネジャーが運用	プログラムされたシステム運用
運用会社	ファンドマネジャーの能力が運用成績に関係	運用会社の違いはあまり関係しない
コスト	高い	低い
パフォーマンス	運用の良し悪しが成果に直結	指数と同程度



## 自分で選ぶ「投資の知恵」

### Aファンド

10 % 今年の利回り

-3 % 昨年の利回り

3 % 5年間の平均利回り

アクティブ型の運用がされます

9 % の分配金

1 % の値上り益

5.292 % の手数料コスト

### Bファンド

3 % 今年の利回り

4 % 昨年の利回り

7 % 5年間の平均利回り

パッシブ型（インデックス型）の  
運用がされます

1 % の分配金

4 % の値上り益

2.7216 % の手数料コスト



# 投資信託のコスト

## 販売手数料

- ・ アクティブ型：3.15%～3.65%程度
- ・ インデックス型：0～2.1%程度
- ・ ノーロード：販売手数料無料 インデックス型に多い

## 信託報酬

0.5%～2.2%程度

## 売買委託手数料

売買回転率

## 販売管理報酬

買戻手数料（短期解約）

- ・ 1年未満：4%程度
- ・ 2～3年：3%程度

## 信託財産留保額

0～0.3%程度



## 自分で選ぶ「投資の知恵」

どちらのファンド  
を選びますか？

### Aファンド

10 % 今年の利回り

-3 % 昨年の利回り

3 % 5年間の平均利回り

### Bファンド

3 % 今年の利回り

4 % 昨年の利回り

7 % 5年間の平均利回り

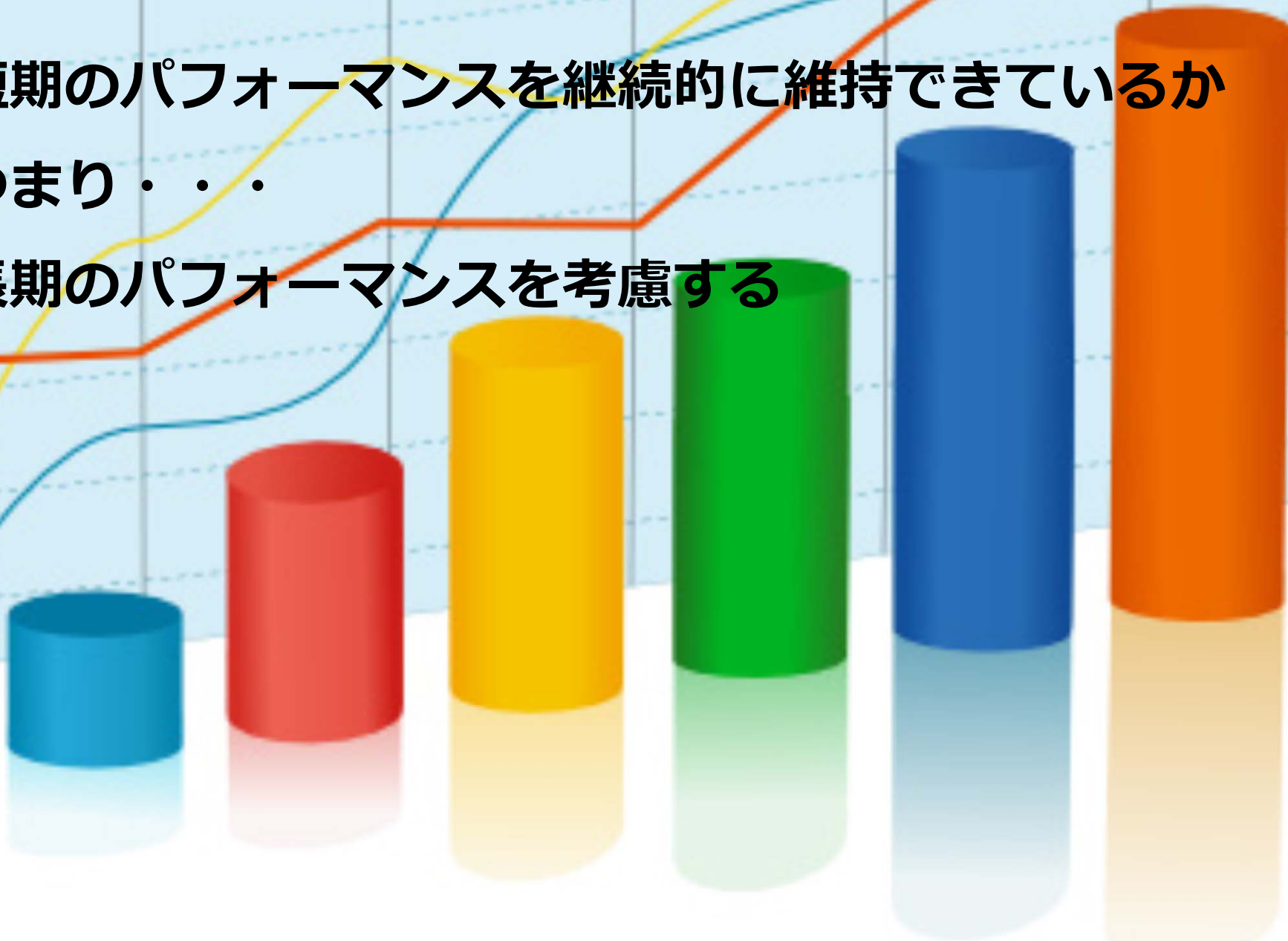


自分で選ぶ「投資の知恵」

## 投資信託の評価

短期のパフォーマンスを継続的に維持できているか  
つまり・・・

長期のパフォーマンスを考慮する





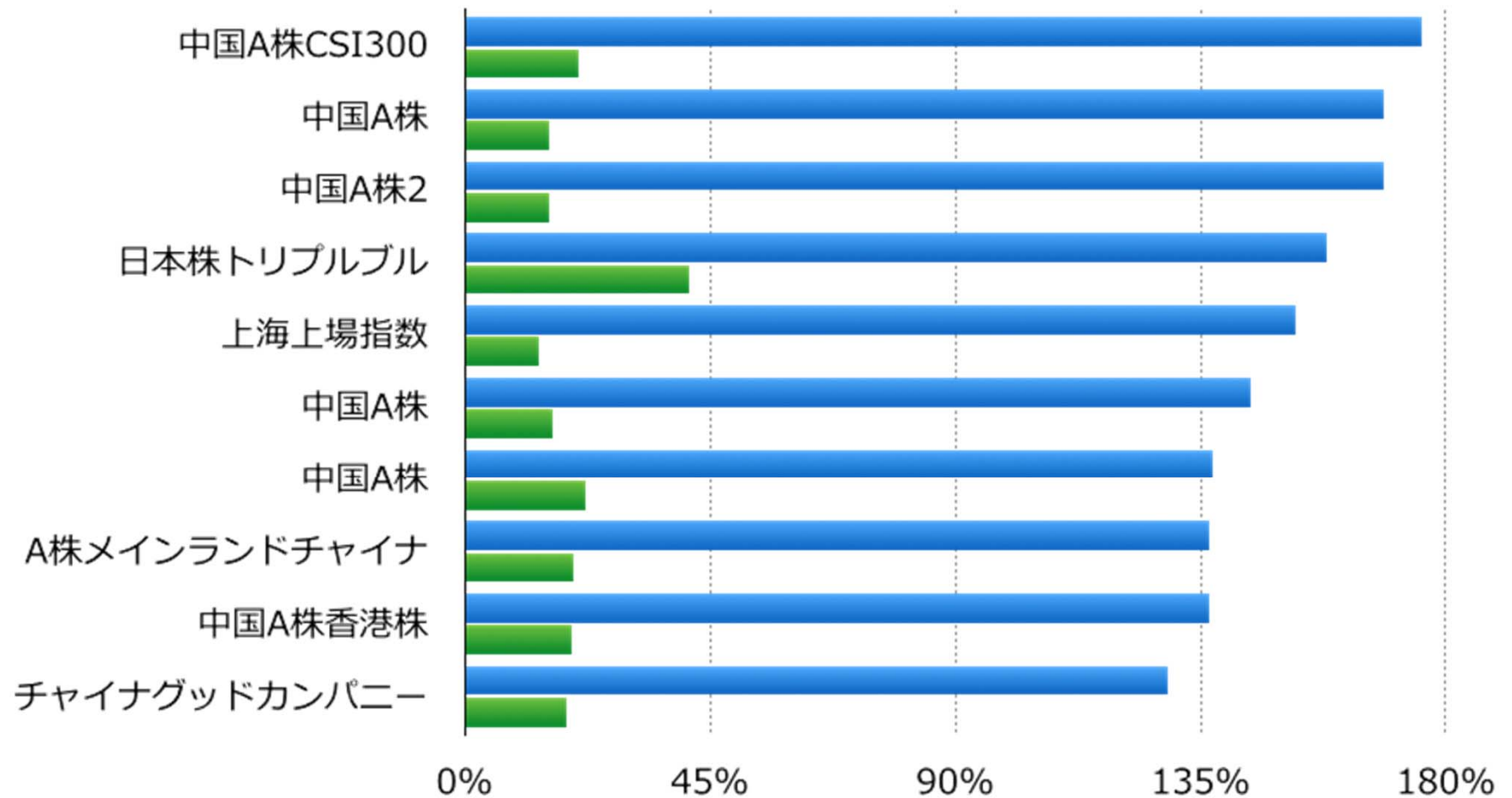
## 自分で選ぶ「投資の知恵」

# トータルリターンランキング

■ 1年リターン

■ 5年リターン

2015/6/17現在





# ここまでのまとめ

- 運用方法によって**アクティブ型**と**インデックス型**の大きく二つに分けられる。
- 5年～10年の長期で見ると、**インデックス型の方が成績が良い。**
- インデックス型を打者で例えると、大振りしないヒット量産型で、アクティブ型は大振りするホームランバッター
- 手数料は、買う時（入口）と保有中（運用中）と解約するとき（出口）の**3ヶ所で手数料がかかる。**一番高額になるには保有中にかかる**信託報酬。**
- 投資信託の評価は1年などの短期ではなく、5年～10年の**長期でも見ないと実力は分からない。**



自分で選ぶ「投資の知恵」

# 投資信託の評価

投資信託の成績表であり取扱説明書 = **目論見書**







自分で選ぶ「投資の知恵」

# 投資信託の評価

## 投資信託の種類

- ★ **株式型**
- ★ **債券型**
- ★ **バランス型**
- ★ **不動産（リート）型**



自分で選ぶ「投資の知恵」

# 投資信託の評価

投資信託を計る物差し

インデックス

ベンチマーク



# 投資信託の評価

## 投資信託を計る物差し インデックスの種類

- 日経平均株価
- MSCIコクサイ・インデックス



## 自分で選ぶ「投資の知恵」

### 日本株式の平均株価

#### 日経平均株価

東証1部に上場している銘柄から、日本を代表する225社で構成される。

- 武田薬品工業
- デンソー
- トヨタ自動車
- テルモ
- NTTドコモ
- ふくおかフィナンシャルグループ
- キッコーマンなど
- 野村ホールディングス
- ソニーフィナンシャルホールディングス
- 日清製粉グループ本社
- セブン&アイ・ホールディングス
- 日本郵政

### 世界株式の平均株価

#### MSCI

#### コクサイ・インデックス

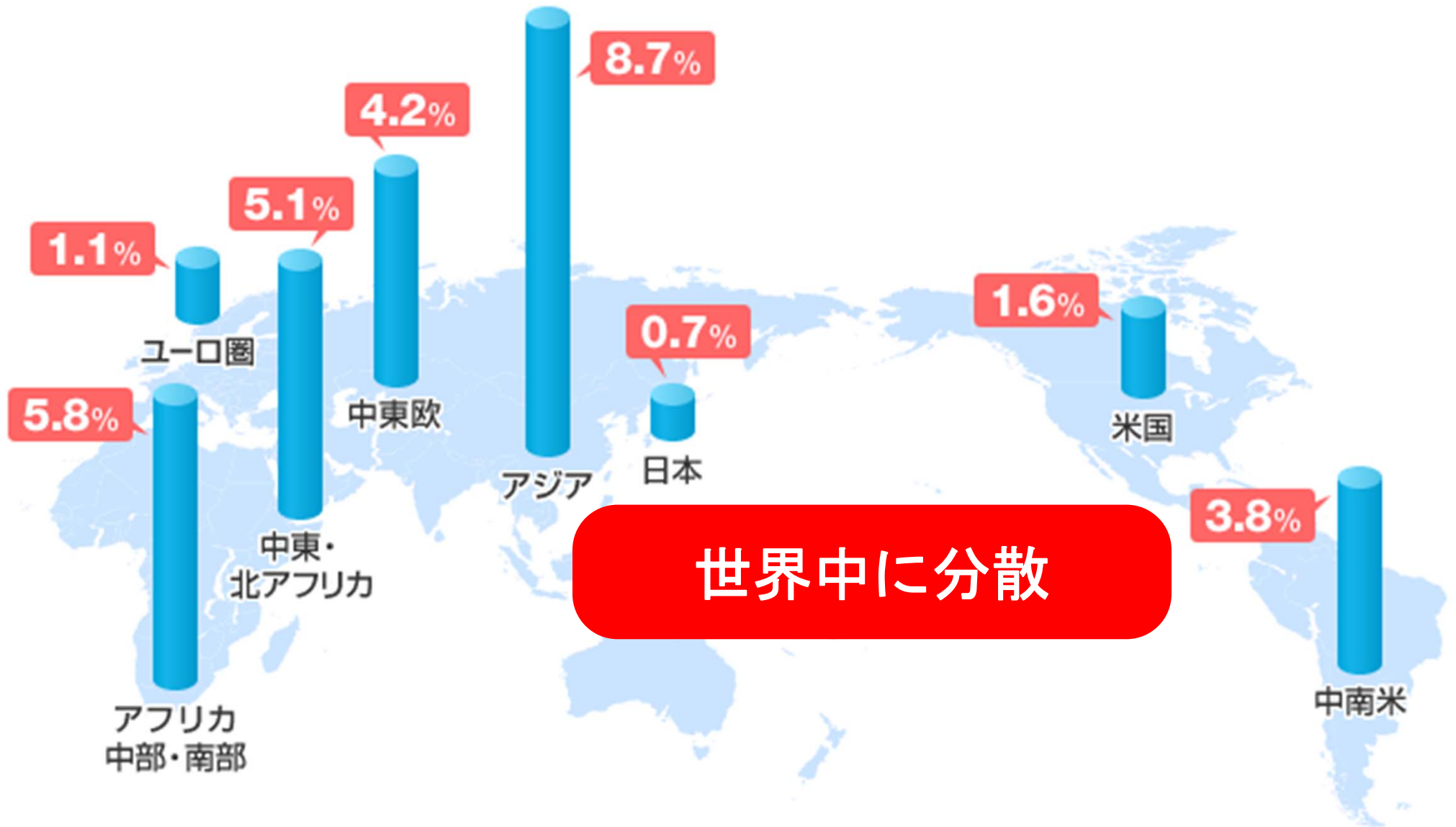
日本以外の先進国24か国、新興国21か国、フロンティア国25か国の約70か国。世界の各市場の時価総額上位約85%をカバー。

- アップル
- エクソンモービル
- マイクロソフト
- ジョンソン&ジョンソン
- アマゾン
- ネスレ
- ファイザー
- P&G
- 3M
- インテル
- フィリップモリス
- ユニリーバなど



## 自分で選ぶ「投資の知恵」

■ 世界主要国・地域の経済成長率（2002～2011年平均、一部推定）





自分で選ぶ「投資の知恵」

# 分散投資

1989年12月～10年間 100万円

1989年12月～10年間 **25万円ずつ**

日本株式

100万円→49万円

**50万円→24万円**

世界株式

100万円→309万円

日本株式

25万円→12万円

世界株式

25万円→77万円

日本債券

100万円→188万円

**50万円→94万円**

世界債券

100万円→145万円

日本債券

25万円→47万円

世界債券

25万円→36万円

**118万円**

**172万円**



# ここまでのまとめ

- まずは、運用パフォーマンスの比較基準として、**インデックス** (**ベンチマーク**) を理解する。
- 沢山あるインデックスの中で最も代表的であり、多くの投資信託のベンチマークにされている**MSCIコクサイ・インデックス**を基準として理解する。
- MSCIコクサイ・インデックスをベンチマークとする投資信託を選べば、一度に**世界中に分散投資**が可能。
- 分散とは、リターンも分散されるがリスクも上手に分散できる。



# 投資信託の評価

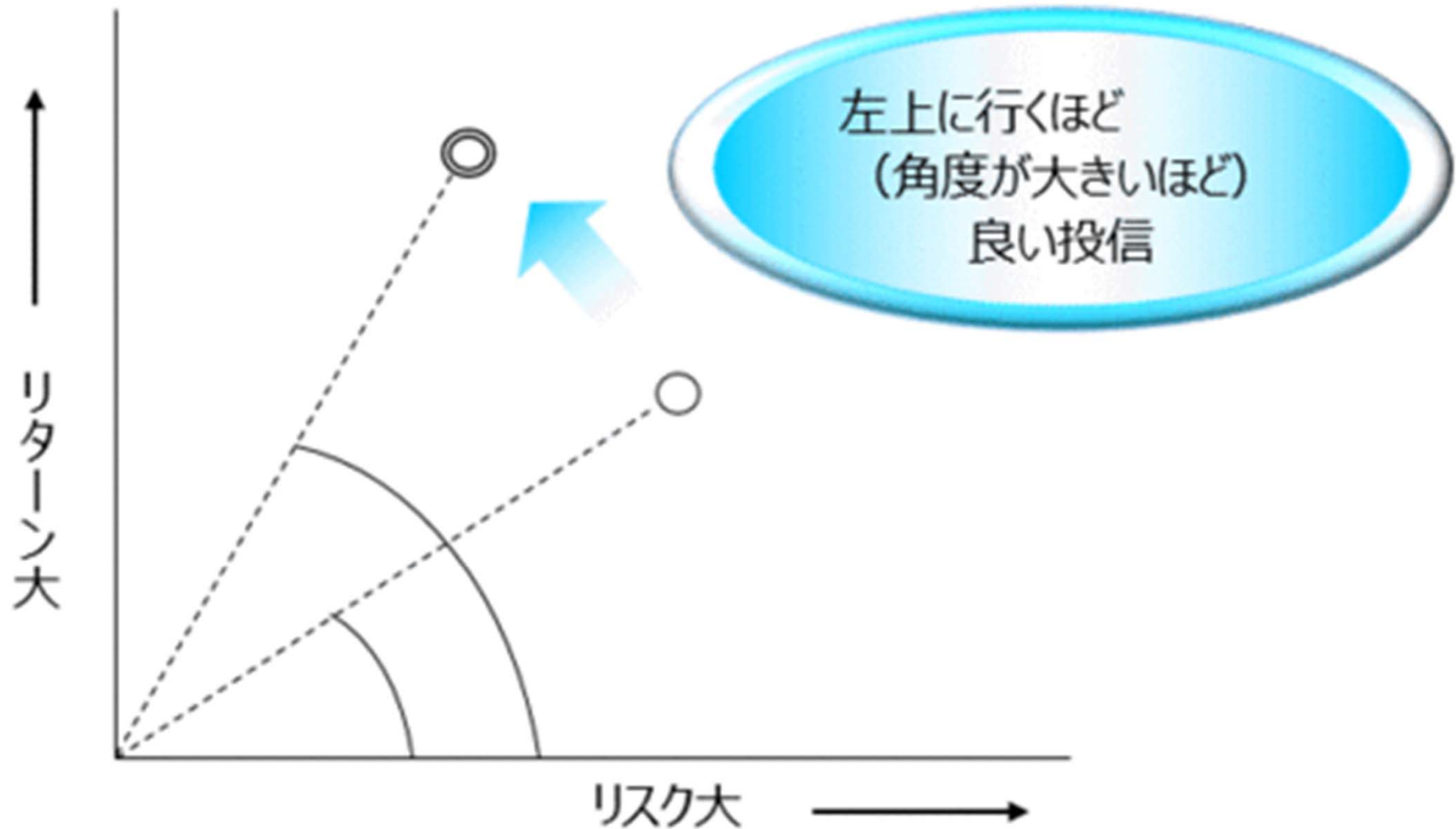
## 目論見書の見るポイント

- インデックス型の場合、対象となる**インデックスは何か？**
- 手数料の確認（入口・運用中・出口）
- ファンドの中身（保有銘柄とその業種。業界）





## シャープレシオとは？





# まとめ

- 商品選びで最も大事なものは、**自分の中に選択基準を持つこと。**
- 基準は、投資の王道で経済活動の基盤である**株式のインデックスにする。**
- インデックスは、**世界の株価の平均である＝MSCIコクサイ・インデックスでOK**
- 商品の比較は・・・**長期**（5年～10年）のリターンと、**シャープレシオ**（1以上）と**標準偏差**の3つを確認。
- しかし、インデックス型の投資信託は色々比較してみても、結局プログラムで運用されるので、**ほぼインデックスと同じ動きになる。**